

巻頭挨拶に代えて

～山岳トイレ問題改善の活動は官民協働の仕組み構築こそが未来への道である～

山のトイレを考える会 代表 小枝 正人

北海道の山を愛する皆さま、こんにちは。

私は、昨年2019年(平成31年)3月16日(土)の総会にて承認をいただき「山のトイレを考える会」の第3代目の代表に就任しました小枝 正人(こえだ まさと)と申します。ようやく1年が過ぎようとするまだ新米です。よろしくお願い致します。

前任の岩村代表(愛称 gan さん)は、幅広い人脈と卓越した山・沢登りの技量、抜群の統率力、楽しいお酒の飲み方で12年間に亘り私達の活動を導いてくれました。ここに心からのお礼の言葉と深い感謝の気持ちを表したいと思います。ありがとうございました！ gan さんは、たとえ海外に居ようともこれからも顧問として柔らかに私達を包んでくれることと思います。

さて、「山のトイレを考える会」は2000年(平成12年)6月に発足・活動を開始し今年で20年が経ちます。20年というとは結構長いですね。当会の発足のきっかけは、大雪山・トムラウシ山南沼野営指定地や十勝連峰・美瑛富士避難小屋周辺のトイレ問題があまりにもヒドイ、何とかしなければという想いからでした。これら象徴的な北海道の山のトイレ問題はどのように改善されたのでしょうか。改善のためにどのような活動がなされて来たのでしょうか。それは当会のホームページに判り易く掲載されていますので、ぜひご覧下さい。(仲俣事務局長が心血を注いで作成) URL <http://www.yamatoilet.jp> か「山のトイレを考える会」で検索にて出ます。スマホからでも覗けますヨ。

会創立期から前半頃の私達の活動は、行政(環境省や北海道)に対して山のトイレ問題改善を一方通行で要求する方法でした。問題改善には思うように結びつきませんでした。その活動方法が変わってきたのはこの数年です。行政(環境省や北海道や地元自治体等)と利用者(山岳団体や民間団体や一般登山者等)がゆるい横の繋がりを共有しながら協働する仕組みを作って活動を行えるようになって来ました。これこそが私達の目指す方向です。

美瑛富士避難小屋周辺のトイレ問題改善活動では、環境省と美瑛町と美瑛富士トイレ管理連絡会(北海道山岳連盟、札幌山岳連盟、北海道勤労者山岳連盟、道央地区勤労者山岳連盟、道北地区勤労者山岳連盟、日本山岳会北海道支部、大雪山国立公園パークボランティア連絡会、北海道山岳ガイド協会、当会；事務局)が協定書を結んで協働活動を行っています。トムラウシ山南沼野営指定地のトイレ問題改善活動では、環境省と北海道(上川総合振興局、十勝総合振興局；事務局)と地元新得町と森林管理署と山岳団体(十勝山岳連盟、新得山岳会、当会)がトムラウシ山南沼汚名返上プロジェクトと称して協働活動を行っています。この度の第21回フォーラムでは、その成果をご報告することが出来ます。

私達の活動は山岳トイレを作って終わりではなく、適正な維持管理を行いその機能を発揮するお手伝いをするという「時」と共に歩む役割もあります。次に引き継ぐ世代に集まってもらうという課題もかかえています。

これからも皆さまと共に一步一步進んでいきたいと思っています。
ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。